

2025年 4月 15日 氏名 横田 開

【JHF 活動履歴】

【JHF 定款への理解】（どれかひとつを選択してください）

☐熟知している ☐ある程度理解している ☒一通り目を通した ☐これから目を通す

【立候補意思表明】公益社団法人としての JHF の活動に関するご自身の考え。

その際に下記2点を含めて下さい。

- (1) 今後の JHF が活動していくべきと考える事
- (2) ご自分が役員として実践していきたい事

前提として、私はまだパラグライダーパイロットでしかなく、
パラグライダーを中心とした活動内容になってしまうこと、ご容赦ください。

JHF はハンググライディング・パラグライディング連盟であり、両方の素晴らしいスポーツを
より持続していくため、私が現時点で取り組めることに最大限注力していきたいと考えております。

1. JHF 会員数の現状に対する課題

2023年末時点での有効会員数は約5,900名。

私がパラグライダーを始めた2018年当時は約7,200名であり、
5年間で約1,300名の減少が見られます。

しかし、PG 技能証の発行枚数に注目すると、

- 2018年:868枚
- 2023年:810枚

この数字から読み取れるのは、

「新規参入者の数」は大きく減少していないということです。

一方で、減少傾向にあるのは既に技能証を取得している、

いわゆる「ベテラン層」の可能性が高いと考えられます。

避けられない「高齢化」という課題

このままの推移が続けば、ベテラン層の引退によって、
今後も会員数は徐々に減少していくことが予想されます。
では、この流れにどう向き合うべきか。

2. 今後の方向性:「新しい風」と「継続できる環境」の両立

▶ 若年層の獲得は理想だが、ハードルが高い

- 機材費・スクール費用の価格の高さ
- エリアまでの交通手段の制約(車・免許が必要)
- 自由に使える時間の少なさ
-

こうした理由から、20～30代の新規参入はハードルが高いのが現状です。

▶ 現実的なターゲット:「ミドル層」へのアプローチ

40～50代のミドル層には、以下のような強みがあります。

- 経済的な余裕がある
- 趣味に使える時間が確保しやすい
- 新しいことに挑戦したいという意欲が高い

まずはこのミドル世代を中心に、パラグライダーの魅力を発信し、
会員数および会費収入の安定化を目指します。
その上で、若年層への支援・再分配を行い、業界全体の持続可能性を高めていきます。

3. 若年層の活躍を支える仕組みづくり

若者が「プロ」として継続的に活動できる環境の整備が必要です。

- JHF として、インストラクターおよび上級タンデム技能証の取得希望者を積極的に支援
- 技術の継承と次世代育成に注力し、未来の人材を育てるための投資を行っていきます。

4. 上級タンデム制度の再定義・再ブランディング

現在、上級タンデム制度に対しては、

「試験が非常に難しそう」
「何となく怖い印象がある」

といった声も聞かれます。しかし、本来この制度は

「プロフェッショナルとして、安全にタンデムフライトを行うための大切な資格」です。

今後は以下のポイントを明確化し、制度の価値を再ブランディングしていきます。

- 必要とされるスキルセット
- フライトに臨むべきマインドセット

制度への理解を深めることで、資格取得者がプロとして誇りを持てる仕組みづくりを推進します。

5. 発信力の強化:スクールと JHF の情報発信の見直し

特に若い世代にとっては「第一印象」が非常に重要です。

古いデザインや情報が乏しい Web サイトでは、
興味を持たれる前に離脱されてしまう可能性もあります。

したがって、

- Web サイトの段階的なリニューアル(コストにも配慮)
- スクール・教員紹介の充実(視覚的にも分かりやすく・魅力的に)
- 画像・動画の活用によるリアルな雰囲気の訴求
- SNS の更なる活用(ヤング層に協力してもらう)
-

といったアップデートを通じて、信頼感のある情報発信を目指します。

6. 教材のデジタル化:e ラーニングの導入

JHF が提供する教習コンテンツについても、現代のニーズに合わせた進化が必要です。

- 最新メソッドを、手軽かつ効率的に学習可能に
- 全国どこでも均一なクオリティの指導を実現
- スクール側の負担軽減にも寄与
- トラブルや事故の際の迅速な情報共有も可能に

オンライン教材の活用により、

新規・既存問わず「安全意識の向上」と「情報の見える化」が促進されます。

7.最後に:未来を守るために、今を変える

持続可能な未来を築くためには、新規層の取り込みと既存会員の継続支援の両輪が必要です。
そして、それを実現するためには、****時代に合った「伝え方」****へのアップデートが欠かせません。
パラグライダーの魅力を、もっと多くの人へ、より伝わる形で発信してまいりましょう。